真っ当に働く基幹技能者は〝死活問題〟

各業種から「総合評価」など懸案の5項目要望

近畿地整と建専連が意見交換会

近畿地方整備局と建設産業専門団体連合会（才賀清二郎会長）、建設産業専門団体近畿地区連合会（北浦年一会長）との意見交換会が二十六日、大阪市中央区のKKRホテルオーサカで行われ、木下局長近畿地方整備局長、才賀会長、北浦会長、連合会会員の代表らが出席した。

若者が将来託せる産業へ

木下局長も一層の努力約束

冒頭の挨拶で才賀会長は「国土交通省では工事専門業者に配慮してファクタリング会社（債権買取会社）という下請資金繰支援事業を打ち出して頂き感謝している。建専連は、異業種、多業種の集まりで、まとまった目

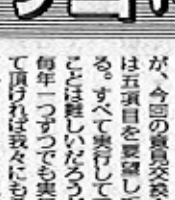
木下局長は「前向きに検討するので忌憚のない意見を聞かせて下さい」とだした

標は立てにくい面があるが、今回の意見交換会には五項目を要望している。すべて実行して頂くことは難しいだろうが、毎年一つずつでも実行して頂ければ我々にも希望が出てくる」と、現在抱えている問題を披瀝した。

また、北浦会長は「時に法をしている者が散っている一方で、日の当たらないところで真っ当に仕事をしている者に正当な報酬が支払われていないことがままある。基幹技能者にとってこれは死活問題。事態の打開を切にお願いする」と力を込めて挨拶した。

これに対し木下局長は「若者が将来を託せる魅力ある産業とするため、諸課題について前向きに対応させて頂く。忌憚のない意見を聞かせて下さい」と要請した。

意見交換では①基幹技能者等の活用について（大阪府板金工業組合）②総合評価方式の発注形態について（大阪府鉄筋工業協同組合）③下請代金の支払い適正化について（大阪建築工事会和協同組合）④切断穿孔工事種目（業種設定）について（全国コンクリートカッター工事業協同組合）⑤鋼材商社・ブローカー等への指導並びに公共工事における特記仕様への適切なグレード指定について（㈳全国鉄構工業協会近畿支部）―の計五項目について要望し、見解を求めた。



「要望を毎年一つでも、実行して頂ければ我々にも希望が生まれる」と挨拶する才賀会長

北浦会長は「真面目に仕事をしている職人らへ正当な報酬を」と訴えた

①は、日本建設業団体連合会が去る四月に、基幹技能者の有資格者から優秀な人材を応募した会社

連鎖倒産回避へ下請代金の支払い適正化も喫緊の急務

有資格者の現場配置を求める発注システム作りの見解を求めたもの。また、併せて労働3保険の事業主負担等において、直用している企業ほど経営が厳しいことから、インセンティブを与える施策（技能者育用企業の入札における優位性）や、一

近畿地方整備局と建設産業専門団体連合会との意見交換会

級技能士の活用の検討も要望している。

②は、総合評価方式と価格のみの発注方式の違いについての説明を求めたもの。

③は、元請けの倒産で不渡り手形を受け取ることが多くなり、連鎖倒産に追い込まれる組合員が出ていることから、元請けから下請けへの支払いを現金一〇〇％払いとするよう要望したもの。

④は、現在、切断穿孔基幹技能者は国土交通省では「とび、土工その他建設業」として扱われているが、登録切断穿孔基幹技能者が設けられたので、工種区分に「切断穿孔工」の工種を加えて欲しいというもの。

⑤は、特定建設業者ではない鋼材会社やブローカーが現場工事だけを三千万円以下の契約金に落とし、工場製作した鉄骨製品を商品として買い取る方法で工事契約が多く行われており、その商品製作は全国鉄構工業協会会員企業に発注し、採算を無視した無理やり受けてくる事例が多発していることから、これの取り締まり強化を要望したもの。また、併せて公共施設の耐震補強鉄骨工事の鉄骨製作工場指定は「性能評価による大臣認定工場」と特記し、全てのグレードで適用範囲（建築・仕様鋼材の板厚）の規定をクリアしている鉄骨製作工場に受注機会を与えるよう要望している。

近畿地方整備局は、これらの要望に対し、六月二十三日付けで近畿管内の発注機関に、総合評価方式を採用するよう文書で通達したことを明かすとともに、近畿ブロック発注者会議と連携しながら基幹技能者を明記するよう努めると回答した。

また、下請代金の支払いの適正化では、個別に指導すると答え、鋼材商社・ブローカーへの指導では、ケースバイケースであるとして、建設産業専門業者に相談に行くようにとアドバイスした。切断穿孔工を工事種目に加える件については、建設業法の改正が必要であるとし、今後、本省へ強く働きかけると答えるに留めた。

最後に木下局長は「難しい話ばかりであり、意見交換という短い時間で

は尽くせ、もっと個別に話合い総評し、北浦会長は「一朝一夕にはいかないが、このままでは、良い会社、良い職人がいなくなり、

「未来の技術者は君だ！」

淀川左岸線で見学会

阪神高速道路会社は二十五日、「未来の技術者は君だ！」と銘打った地元小学生対象の現場見学会を淀川左岸線で行った。大阪市立島屋小学校六年の児童ら（社会科見学）を招き、道路会社の職員が高速道路の建設現場を案内した。

実物の建設機械に触れ大はしゃぎ

最盛期 鹿島JV施工の「島屋北工区開削トンネル」

JV（代表鹿島久所長）施工の島屋北工区開削トンネル工事。北端酒から北上、正蓮寺川までの道路及び換気用地直下で南北にS字を描く形で三百五十㍍の本体を築く工事で、すでに工区中間部付近では頂版のコンクリート打設まで終えており、前後区間では底版コンクリート打設が進められている。

児童らは地上部を見学した後、三班に分かれてトンネル内へ。狭い足場を伝い最深部へと進んでいき、説明を受けながら鉄筋の配筋作業などを見学したほか、実際に使われている工事用リフターや建設機械に乗るなど

足場を伝け、トンネル内部を目指す児童ら

最深部で「どを見学

"生の現場"を堪能。最終的にどうなるのか、最適後区体が完成している島屋4工区にも足を運び、トンネル内へ。狭い足場を伝い最深部へと進んでいき、説明を受けながら鉄筋の配筋作業などを見学したほか、実際に使われている工事用リフターや建設機械に乗るなどを一通り見た後、これがトに頷き付け、その感般

そして建設途中の現場を隈なく見て回った。

声があちこちで聞かれた。

ヤリとしたコンクリー

北区島屋を起点に、淀川左岸線は、大阪市

を確かめるなど、閉道後では絶対にできない貴重な体験を味わった。

ひいては労働者、企業が搬送しなければならないという現状にあることに関心を持って頂きたい」と述べ、意見交換会を締めくくった。

完成した函体にも足を運び、工事のあれを本後しこ

傍に至る延長八・七㌔で、大阪都市再生環状道路の一部を担う。

このうち島屋―高見堀四・三㌔について二十四年度の完成を目指し、函体工は全面展開中。また3号神戸線につながる為老行JCT工区でも、下部工を着